

【平成 26 年 3 月期 アナリスト・機関投資家向け決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。なお、文中は年度で表記しております。

<日 時> 2014 年 5 月 20 日(火) 10:00~11:30

<出席者> 明治ホールディングス(株) 代表取締役社長 浅野 茂太郎

Meiji Seika ファルマ(株) 代表取締役社長 松尾 正彦

(株)明治 代表取締役社長 川村 和夫

明治ホールディングス(株) 取締役常務執行役員 平原 高志

Meiji Seika ファルマ(株) 取締役常務執行役員 小林 大吉郎

Q1) 14 年 6 月 27 日付で新役員体制となります。明治グループを今後どのような方向へ導いていきたいと考えていますか。

A1) 目指す方向はこれまでと同じです。「食と健康」の領域において、赤ちゃんからお年寄りまであらゆる世代のお客さまの生活充実に貢献していく姿勢を継続します。そして、消費者やユーザーの皆さまの信頼を大切にしてグループを発展させていきます。また長期経営指針「明治グループ 2020 ビジョン」に基づき、競争力を高め、国際展開力にも磨きをかけながら、中期経営計画「TAKE OFF 14」の達成に最後までこだわってまいります。

Q2) 食品セグメントのコストダウンや構造改革が進んでいます。14 年度はどのような部分に一層の収益性向上の余地があると考えていますか。

A2) 09 年の経営統合と 11 年の再編により、これまで、さまざまなシナジーが生まれてきています。14 年度の取り組みのうち具体例を一つご紹介しますと、物流面のシナジー効果の追求があります。現在、新愛知工場を建設しており間もなく完成の予定です。ここで融合物流に挑戦します。具体的には、従来、東海地区にあった 5 つのチルド倉庫と常温倉庫を集約し、チルド品から菓子・レトルト食品などの常温品までカバー可能となります。

Q3) 菓子事業は 14 年度に売上高営業利益率をさらに改善させる計画です。今後どの程度まで改善させる考えですか。

A3) 「明治グループ 2020 年ビジョン」では、グループ全体で売上高営業利益率 5%以上を目標に掲げています。この目標の実現に向けて、「TAKE OFF 14」では構造改革やコスト削減に取り組んでいます。各事業においてもまずは 5%を達成していこうと考えています。

Q4) 成熟度が高い国内の菓子業界ですが、構造改革に基づきコストを絞ると、トップラインが犠牲になる可能性があります。売上成長とコスト削減のバランスをどのように考えていますか。

A4) 確かに菓子業界は成熟度が高いですが、当社が得意とするチョコレート市場は伸長しています。チョコレートを中心にシェアアップに努める一方、コスト削減にも取り組みながら構造改革を進めることによって、バランスは取れると考えています。

Q5) プロバイオティクスヨーグルトは、13 年度に大幅に売り上げが伸びました。14 年度はどこまで伸ばしていけると考えていますか。

A5) 単年度の売り上げ増より安定して成長させることを考えています。ロングセラーブランドとして皆さまにご愛顧いただける商品に育てていきます。

Q6) 14年度営業利益計画は375億円ですが、「TAKE OFF 14」の当初目標400億円に近づけていくための要因はどの部分にあると考えていますか。

A6) 食品セグメントでは前年比で140億円規模のコストアップ要因があります。また、医薬品セグメントでは薬価改定により92億円の影響を見込みます。引き続き、主力品のシェアアップや、構造改革、コスト削減などを継続することでこれらの影響を吸収し、まずは14年度計画の営業利益375億円の達成に努めます。また現中計の達成に最後までこだわってまいります。

Q7) 「TAKE OFF 14」期間中の設備投資累計額が1396億円となる計画が今回発表されましたが、当初計画より220億円程度下回ることとなります。これはどのような要因によるものですか。

A7) 設備投資額は支払いベースで開示しております。したがって、支払いのタイミングが期ズレしていることが今回の乖離の要因です。投資の方針は「TAKE OFF 14」策定時と変更ありません。

以上